

『青年期の対人関係』

堀 川 諭

1. はじめに

近年、青少年の社会的不適応が大きな問題となっている。なかでも、高校生という時期は、青年期の発達過程でも中核的な段階をしめる年代であり、そのため多くの問題を内在している。すでにわれわれの調査¹⁾でも、さまざまな精神医学的問題を有する高校生が最近著しい増加傾向にあることが明らかになった。ちょうどこの時期は、Blos, P.²⁾によれば青年期中期にあたり、笠原の青年期区分によれば、青年前期から青年後期にわたる時期でもあり、この年代こそもっとも青年期らしい特徴がくっきりと出てくる時期と言えよう。したがって、たとえば17歳という年齢は青年期を象徴するものとして、しばしば文学作品の題として用いられてきた⁴⁾。一方、不適応に基づく問題行動としてとりあげられるには至らないものの、精神保健上いろいろな不健康な徴候を持つものが多く存在していることが推測される。こうした観点から、青年期の精神保健を考える上で、まず現代青年像の実態の把握が不可欠であると思われ、この度、大阪府下の対照的な特徴を有する公立高校の2年生を対象に、かれらの生活行動意識調査を実施した。今回は、その中で、この時期の青年の心性や行動に大きな影響を与える対人関係について検討をおこなった。

2. 対象

対象としたのは、大阪府下の公立高校のA校2年生563名（男子292名、女子271名）と、B校2年生488名（男子228名、女子260名）の合計1051名である。A校は、大阪北部の古い伝統を有する受験校で、該当する学区内ではもっとも高い評価を受けており、中学校の成績のトップクラスのものが入学している。これとは対照的に、B校は、大阪市内の新設校で、大学への進学率も低く、いわゆる落ちこぼれ校として学力レベルの点では学区内での評価の低い高校である。

3. 方法

高校生の生活・行動・意識，および精神健康を明らかにするため，①対人関係，②学校生活とその周辺，③自己理想，④身体と性，⑤心身症状の5つの視点から構成された，60問100項目からなる調査表を作成した（資料1）。実施にあたっては，調査に対して協力を得ることのできた両校に，その趣旨，記入方法についてあらかじめ説明を行い，校内において各クラスごとに集団で記入してもらった。調査期間は昭和63年5月である。なお今回は，その中で，対人関係に的を絞って報告する。

4. 結果

(1) 学校の特徴

高校生の対人関係を調査するにあたり，まず基本的な両校の特徴について分析を行った。まず家族構成について片親家庭の割合を調べた（表1）。A校では片親家庭の割合がきわめて少ないのに対して，B校では，父親のいない家庭が13.3%，母親のいない家庭が8.6%もあり，両校間に有意な差がみられた（ $P < 0.005$ ）。

次に，「今の学校は自分の希望していたところか」どうかを調べた（表2）。「第一希望であった」とするものは，A校で82.8%に達するのに対して，B校ではわずか28.3%に過ぎない。一方，「希望していなかった」とするものは，B校に19.5%もみられ，B校では5人に1人が希望校でなかったことが明らかになった。

卒業後の進路に関しては，「大学進学」希望の有無をもとに調査した（表3）。A校では93.3%のものが大学進学を希望しており，「進学したくない」とするものはわずか3人であった。これに対して，B校では大学進学を希望するものはわずか25.4%で，33.8%のものが「進学したくない」としており，A校ときわめて対照的な傾向をもつことがわかった。またこれに関連して，「学習塾・予備校に行っているか」どうかを調べた（表4）。A校では41%のものが塾か予備校に行っているのに対して，B校ではほぼ全員がどちらにも行っていないと回答した。

(2) 友人関係

「あなたには友達が何人いますか」の質問に対して（表5），全体でほぼ90%のものが「7人以上いる」と回答しており，学校間，男女間に有意差はみられなかった。

ついで，「友達のうち親友と呼べる人はいますか」の問いに対して（表6），「いる」と回答したものは，女子では，A校が75%，B校が74%であるのに対して，男子では，A校が61%，B校が54%であり，両校ともに「親友と呼べる人がいる」と答えたものは女子の方

が男子よりも有意に多かった ($P < 0.005$, $P < 0.005$)

「親友と思う理由は何か」を調べてみると(表7), 全体として「悩みごとや他の人には言えないことを相談できる」からと答えたものが一番多く, ついで, 「気があう」, 「長い間つきあっている」の順であった。その中で, 女子では, 「悩みごとや他の人に言えないことを相談できる」を理由にあげたものが圧倒的に多く, A校で68%, B校で65%であるのに対して, 男子では, A校で39%, B校で28%に過ぎず, 両校ともに男女間で有意な差がみられた。また, 男子においては, A校では「相談できる」が39%, 「気が合う」が30%, 「長い間つき合っている」が7%で, B校では, 「相談できる」が28%, 「気が合う」が24%, 「長い間つき合っている」が18%と, 親友と思う理由が比較的分散しているのに対して, 女子では, 「相談できる」からという回答が他の理由に比べて著しく高い割合をしめていることがわかった ($P < 0.005$)。

「友達とのつき合いをわずらわしいと感じたことがありますか」の質問に対して(表8), 「よくある」および「時々ある」をあわせて, 「わずらわしいと感じたことがある」と答えたものは, A校の男子が61%, 女子が59%, B校の男子が50%, 女子が58%で, 両校, 男女間に有意差はなく, 全体としてほぼ50%~60%のものが友達とのつきあいでわずらわしいと感じたことがあると答えている。

「あなたはクラスの中で孤独だと感じたことがありますか」の質問で(表9), 「よくある」と「時々ある」をあわせて「ある」と答えたものは, 全体として, A校で44%, B校で44%と両校ともに同じ値を示した。その中で, A校では, 孤独を感じたことがあるものは, 男子が51%, 女子が38%で, 男子の方が女子よりも有意に高く ($P < 0.005$), これに対して, B校では, 男子が41%, 女子が46%と男女間に有意な差はみられなかった。

「あなたのクラスにはいくつかのグループがありますか」の質問に対しては(表10), 男女間で顕著な差がみられた。すなわち, 女子の方では, A校B校ともに, ほぼ80%のものが「クラスにはグループがある」と答えているのに対して, 男子では, 「ある」と答えたものは, A校で56%, B校で39%に過ぎず, 両校ともに, 女子の方にグループの存在を認めているものが圧倒的に多いことがわかった ($P < 0.005$)。また, 「グループがある」と答えた男子は, A校のほうがB校よりも多いものの ($P < 0.005$), 全体としては両校の傾向は類似している。次に, グループの存在を認めたものに対して, 「現在いずれかのグループに属しているか」どうかを調査した(表11)。「属している」と答えたものは, A校で65%, B校で63%と両校間に有意差はみられなかった。しかし, 男女間で検定してみると, 「グループに属している」と答えたものは, A校では, 男子が48%, 女子が77%, B校では男子が58%, 女子が65%と, 両校ともに女子の方が有意に高いことがわかった ($P < 0.005$)。さらに, 「グループに属している」と答えたものに対して, 「グループの中で気の合わない人がいるか」どうかを調べたが(表12), 「気の合わない人がいる」と答えたものは全体で13%

であった。

「同級生にどう思われているかはとても大切だと思いますか」という質問では（表13）、A校の男子で61%、女子で68%、B校の男子で46%、女子で54%のものが「大切だと思う」と答えているのに対して、「思わない」としたものはA校で男子10%、女子9%、B校で男子11%、女子12%であり、「思う」と答えたものの方がはるかに多かった。全体としては、「大切であると思う」としたものは、A校では64%、B校では50%で、両校間に有意差がみられ、A校のほうが同級生の評価を重視していることがわかった（ $P < 0.005$ ）。

これに関連して、「親友でもお互いに嫌なところは見せないようにしたいと思うか」どうかを調べた（表14）。全体としては「そう思わない」と答えたものが37%で、「そう思う」とする22%より高いことがわかった。またその中では、男女間に有意差がみられ、男子では「そう思わない」と「そう思う」の回答の間に差はなく、一方、女子では「そう思わない」とするもののほうが有意に高い値をしめした（ $P < 0.005$ ）。

「あなたは悩みごとがあればまず最初に誰に相談しますか」の問いでは（表15）、男女とも「友達・親友」が1位であったが、とりわけ女子にはその傾向が著しく、A校では62%、B校では80%の女子が相談相手として「友達・親友」をあげており、男女間に有意な差がみられた（ $P < 0.005$ ）。一方、「誰にも相談しない」と答えたものは男子に多く、A校では29%、B校では25%の男子にみられ、女子の9%に比べて有意な差を認めた（ $P < 0.005$ ）。また、「父」を相談相手にあげたものは全体の1.5%で、「母」に比べて著しく少なかった。また、「父」と「母」をあわせた「両親」を相談者にあげたものは、A校で18%、B校で7%と、学校間で有意差がみられた（ $P < 0.005$ ）。

(3) 家族関係

「あなたのお父さんは父親としてまあ合格点をあげてもよいと思いますか」の質問では（表16）、A校では男女ともほぼ65%のものが「合格点をあげてもよいと思う」と答えたのに対して、B校では男女ともほぼ40%で、父親に対する評価は、A校のほうがB校よりもはるかに高いことがわかった（ $P < 0.005$ ）。

同様に「あなたのお母さんは母親としてまあ合格点をあげてもよいと思いますか」の問いに対して（表17）、A校ではほぼ8割（男子76%、女子81%）が「合格点をあげてもよいと思う」としたのに対し、B校では男子53%、女子55%と、母親に対する評価もA校のほうがB校よりも著しく高いことがわかった（ $P < 0.005$ ）。一方、表16と表17から、「父」と「母」の評価を比較すると、両校とも「母」に対する評価のほうが「父」よりも高い結果となった（ $P < 0.005$ ）。

「あなたはあなたの家族をどんな家族だと思いますか」という質問をもとに、家族のまとまりについて調べた（表18）。その結果、「よくまとまっている」と積極的に評価したも

『青年期の対人関係』

のは、A校48%、B校22%で、A校はB校の2倍以上の高い率をしめした。また、「よくまとまっている」と「なんとかまとまっている」をあわせて「まとまっている」としたものについても、A校はB校に対して有意に高い値をしめしている ($P < 0.005$)。これに対応して、「バラバラだ」と回答したものは、A校で男子8%、女子7%、B校で男子19%、女子21%と、両校間に大きな差がみられ、自分の家族は「バラバラだ」と評価したものはB校に有意に多いことがわかった ($P < 0.005$)。

次に、「父親との対話」、「母親との対話」について調査した(表19, 表20)。「あなたはお父さんとよく話し合いますか」の質問に対して、「あまり話さない」と答えたものは全体の33%で、「よく話す」と答えた18%に比べて有意に高い値をしめした ($P < 0.005$)。その中で、「あまり話さない」とする回答については両校の男女に有意差は認められなかったが、「よく話す」と答えたものは、A校の男女がともに23%であるのに対して、B校では男子が10%、女子が13%であり、両校間で有意な差が認められた ($P < 0.005$)。一方、これに対して、「あなたはお母さんとよく話し合いますか」の問いでは、「よく話す」と答えたものは、両校ともに女子に圧倒的に多く、男女間で大きな差がみられた ($P < 0.005$)。学校別にみると、「よく話す」としたものは、父親の場合と同様に、A校のほうが有意に高いことがわかった ($P < 0.005$)。次に、父親と母親との間で比較してみると、両校の男女とも母親のほうがはるかによく話していることがわかった。

「親以外の大人とよく話す機会がありますか」の問いでは(表21)、全体の39%が「ない」と答え、また学校別ではA校の方がB校に比べてその値が高く ($P < 0.005$)、とくにA校の男子に著しい(50%)ことがわかった。次に、「親の知合い」および「友達の親」と答えたものはB校に多く、学校間で有意差がみられた ($P < 0.005$)。また、「先生」としたものは全体の23%で、A校のほうがB校よりも有意に高い値をしめした ($P < 0.005$)。

(4) 異性関係

「あなたは現在異性の友達はいますか」の質問に対して(表22)、全体で約半数のものが「いる」と答えている。「いる」としたものは、両校ともに女子に多く ($P < 0.05$, $P < 0.005$)、とくにB校の女子は72%という高い率をしめし、A校の女子と比べて大きな差がみられた。男子では両校ともに40%前後で、学校間に有意差はみられなかった。また、「いない」と答えたものはA校の男子に多いことがわかった(60%)。しかし、「現在一対一でつきあっている異性の友達はいますか」の問いでは(表23)、「いる」と回答したものは全体で14%に過ぎず、前問の割合に比べて著しく低いことがわかった。

「あなたが男女交際をするとしたら、どのような交際がしたいですか」の質問では(表24)、「友達以上の関係にならない交際をしたい」が18%、「キスくらいならしてもよい」が12%、「ペッティングまでならしてもよい」が1%、「性交してもよい」が7%であった。

しかし、62%のものが「わからない」あるいは「無答」として回答を避けている。その中で、「友達以上の関係にならない交際」としたものは、A校に多く ($P < 0.005$)、また両校ともに女子のほうが高く ($P < 0.005$)、とくにA校の女子が36%と顕著であった。また、「性交してもよい」とするものは両校ともに男子に多く、男女間に有意な差がみられた ($P < 0.005$)。

つぎにセックスに関する情報源について調査した(表25)。全体としては、「友達」からとするものももっとも多く、約半数が「友達」をあげているのに対して、「親」と答えたものはほとんどなかった。つぎに、情報源を、友達・先輩・親をあわせた「人間からの情報」と、雑誌・テレビ・ラジオ・映画をあわせた「メディアからの情報」に分けて検討した。まず人間からの情報では、A校37%、B校65%と、学校間に差がみられ ($P < 0.005$)、B校では人間からの情報がきわめて高い率をしめていることがわかった。これに対して、メディアからの情報では、A校48%、B校21%と、A校ではメディアを情報源とするものがきわめて高い割合をしめた ($P < 0.005$)。

5. 考察

高校2年生はちょうど青年期中期にあたる。この時期には、Freud, S.⁵⁾が the transformation of pubertyとしてあげた①性器統載、②男女の性目標の分化、③非近親相姦の対象の発見、が中心課題となってくる。かれらは、これらの課題に直面し、その達成のための闘いを課せられることになるが、こうした試練の過程において、青年期の対人関係は大きく再構成されていく。すなわち、幼児期の愛情対象であった両親から徐々に分離していくとともに、友人関係は著しく比重を増していき、やがて異性愛的対象の発見の段階に移行していくことになる。しかしこの過程にはさまざまな葛藤や緊張を伴うのが常であり、この時期の青年の心性や行動に大きな影響を与えることになる。今回、青年期の対人関係を考える上で、①友人関係、②親子関係、③異性関係の3点を指標として考察を加えることにした。

友人関係では、高校生のほぼ90%が7人以上の友達を持っていることがわかった。しかし、その中で親友と呼べる友達を持っているものは、女子で75%、男子で約60%と、男女間に有意な差がみられた。これは、「親友でもお互いに嫌なところは見せないようにしたい」と思っている男子が女子に比べて有意に多いことから示唆されるように、友人との間にある程度距離をおいてつき合っていこうとする男子の防衛的傾向を推測させるものと思われる。また、「親友と思う理由」として、女子では「悩みごとや他の人には言えないことを相談できる」からとするものが圧倒的に多いのに対して、男子では約30%に過ぎず、ただ単に「気が合う」からとか「つき合いが長い」を理由にあげるものが多かった。高校生に

とって、ことに男子高校生にとって親友とはどんな存在なのか。池田らの指摘する⁶⁾ように、何のかくしだてもせず、心を開いてつきあえる、いわば全面的な信頼にうらうちされた友達ではなく、表面的に、ともに楽しく過ごすことのできる児童期の仲良しの域にあるものがこの親友にはかなり含まれているものと推測される。「クラスのなかで孤独だと感じる」とするものは全体で44%であったが、特にA校の男子に有意に高く、受験戦争の心理的圧迫の影響が推測される。ところで、青年期には、自分を理解し、自分の不安や緊張を和らげてくれる友人をみつけていこうとするが、そこには調和的な関係だけがあるのではなく、当然激しい葛藤の関係がある。しかし、葛藤の関係は自己反省を促し、他者の目を通して自己をみるという能力を生み出す契機となる。したがって、そこから生まれる孤独体験は自我同一性の形成にとってきわめて重要な意味を持ち、この時期の孤独体験は必ずしも否定的にとらえるべきものではないと思われる。また、「同級生にどう思われているかはとても大切である」と考えるものは全体で約6割、「友達とのつき合いをわずらわしいと感じたことがある」ものが6割近くおり、これらはこの時期の友人関係の多感な様相を反映したものと考えられる。

青年期症例の臨床場面では、しばしば「グループ」という表現に出会うことがある。たとえば、それは「グループに入っていないので弁当を食べるのもクラスで一人で食べなければならない」とか「グループに入っていないので仲間外れにされる」などと表現されることが多く、不登校の要因としてあげられることもしばしばである。そこから推測される「グループ」とは、クラブ活動やサークル活動のように一緒に遊んだり、勉強をするような、いわば「仲間」crowdとしての関係ではなく、ましてや「仲よし」cliqueのように相互の尊敬と愛情にうらうちされた集団でもなく、もっと軽い関係でありながら、しかし、一部の高校生にとっては学校生活を送る上でかなり大きな割合をしめる存在であることを推測させるものである。したがって、高校生の対人関係や学校生活での不適応現象を考える上で、かれらのいう「グループ」についての理解と実態の把握はきわめて重要であると考え、いくつかの質問をもとに「グループ」についての検討を試みた。まず、「あなたのクラスにはいくつかのグループがありますか」という質問では、全体で65%のものが「ある」と回答した。特に女子では、両校ともに約8割のものがグループがあると答えており、現代の高校においては「グループ」の存在が相当普遍性をもつものであることが推測される。また、グループが存在すると答えたものの中で、現在自分がグループに属していると回答したものは64%であったが、ここでも女子の方が男子に比べて著しく高い割合をしめた。次に、「あなたにとってグループとはどういうものですか。自由に書いて下さい」という自由記述では、いくつかの興味ある回答がみられた。回答のなかでは、「気の合うものの集まり」で、「行動を共に」し、「お弁当を一緒に食べたり、しゃべったりする仲間」であり、グループの中では「心が落ち着く」とするものが多かった。しかし、一方では、「安全のた

め」の「一種の防壁」のようなもので、「同じグループ以外のものとの交流は少ない」、かなり「閉鎖的な集団」であり、「グループなんかいい方がよい」とするものも比較的多くみられた。一方、グループに属していると答えたもののうち、「グループの中で気の合わない人もいます」とするものは、全体の13%にみられた。これらの結果から、グループとは、気の合うものが集まって、いろいろとしゃべったり行動を共にしたりする、かなり閉鎖的な集団であり、そうしたグループがクラスの中にはいくつか存在し、グループに入っていないと疎外感を味わうことになり、そのためにたとえ気の合わない人がいてもいずれかのグループに帰属しようとする傾向がうかがえる。しかし、そこには激しい葛藤の関係はうかがえず、ただ単に孤立を恐れるための参加で、それによって不安定な自己をなんとか安定させることはできるものの、きわめて希薄な紐帯で結ばれた関係に過ぎないのではないかと考えられる。いずれにせよ、今後より深い検討を要する課題であると思われた。

青年期における家族関係では、両親との対話、両親に対する評価、家族の凝集力について検討を行った。両親との対話では両校に有意な差がみられた。父親とよく話すか答えたものは、A校で23%、B校で12%とA校に高く、また母親とではA校55%、B校34%と、両親のいずれにおいてもA校の方が高い値を示した。これに対応して、両親に対する評価でもA校が有意に高いことがわかった。A校では、父親に合格点をつけているものが65%、母親に対しては79%の高い割合を示している。しかし、B校では、父親に合格点の評価をするものは40%、母親に対しては54%と、A校に比べて著しく低い値を示している。こうした両校の相違は、家族の凝集力に対する評価の違いとしてもあらわれており、自分の家族はバラバラだとするものは、B校はA校の3倍にも達している。これらの結果は、B校に片親家庭が多いことに象徴されるような両校の家庭環境の違いと、卒業後の進路の相違が少なからず反映しているものと思われた。A校ではそのほとんど全てが大学進学を希望しているのに対して、B校では進学を希望するものはわずか4分の1に過ぎず、4分の1が就職を希望している。こうした親からの早い自立への方向性が情緒的な依存関係の希薄化傾向をもたらしているとも考えられる。いずれにしてもさらに検討を要する課題と思われた。一方、父親と母親を比較すると、母親のほうが評価が高く、よく話しをするという点でも父親よりはるかに高く、母親との情緒的な結びつきの強さがうかがえる。これは、悩みごとの相談相手として、友達・親友について、母親が高い割合をしめていることから⁷⁾も示唆される。こうした傾向は他の調査でもみられ、たとえば東京都の「青少年基本調査」²⁾でもほぼ同じ様に母親への愛着の強さを示す結果が得られている。Blos, P.²⁾は青年期を母子関係の第2の分離個体化の過程としてとらえているが、両親からの離脱を課題としている青年にとって、逆説的ではあるが両親からの自我支持がきわめて重要であることはいまでもない。しかし、情緒的な依存関係が、調和と葛藤の親子関係から生まれたのではなく、甘えの延長にあるものであるなら、それは吉田らの指摘する⁸⁾ように、自己とは異なる

『青年期の対人関係』

他者の存在を認め、その存在への思いやりを示すといった発展に進まない可能性があると考えられる。

青年期に始まる急激な性的成長とともに、青年は異性への関心と性への関心を強め、異性との愛情関係を結ぼうとするようになる。今回の調査でも、全体で約4割のものが異性の友達がいると答えた。特にB校の女子が72%という高い割合をしめしたのは、性意識に対する男女差や、受験という抑圧の有無による影響が大きいものと推測される。一方、異性の友達を持っていないものは、これもB校の女子を除いて、約半数にみられた。高校生にとって異性の友達とは、たんなるクラスメイトではなく、特定のガールフレンド、ボーイフレンドを意味していることがわかる。また、一対一でつき合っている異性の友達がいると答えたのは、全体で13.5%と著しく減少し、NHKによる調査の⁹⁾21.2%に比べても低い値であった。男女交際に関しても、性交してよいとするものは、全体で7%に過ぎない。性情報の氾濫による青少年の性意識の先鋭化にもかかわらず、現代高校生の性行動に関しては、社会的な抑圧が高く機能していて、禁欲的な建前が堅持されていると考えられる。¹⁰⁾これには福島¹⁰⁾の指摘するように、日本独特の本音と建前の二重構造が大きく関わっているものと思われる。性の情報源に関しては、友達・先輩からとするものが約65%で、これは総理府の調査結果とほぼ同じ値であった。また、雑誌・テレビ・ラジオ・映画などのメディアを介する情報は21%で、現代高校生にとって、この両者がほぼ情報源となっていることがわかる。一方、親からとするものは1%に満たず、これは、母親からの情報を11.5%とする総理府の調査結果¹¹⁾とは大きな差がみられた。しかし、この時期が両親からの分離を¹¹⁾発達課題とし、それをめぐって葛藤する時期であることを考えれば、必ずしも否定的にとらえられない結果であると考えられる。

6. おわりに

大阪府下のきわめて対照的な二つの公立高校の2年生1051名を対象に、現代青年像の把握を目的とする生活行動意識調査を行った。今回は、その中で、青年期の心性や行動に大きな影響を与える対人関係について検討を加えた。自己理想や心身症状などの他の調査項目については次回に報告する予定である。なお、この調査は、著者を代表とする思春期問題研究会が行ったもので、調査に御協力下さった学校の先生と生徒の皆様および研究会各位に感謝を申し上げます。

7. 文献

- 1) 堀川 諭ほか：高校生の精神衛生に関する臨床的考察，大阪府立公衆衛生研究所報，20，1987

『青年期の対人関係』

- 2) Blos, P. : On Adolescence. New York, Free Press, 1962
- 3) 笠原 嘉：青年期，中公新書，1977
- 4) W. サローヤン「Seventeen」，大江健三郎「セブンティーン」など
- 5) Freud, S. : Three Essays on the Theory of Sexuality.1953
- 6) 池田由子ほか：中学生の精神衛生に関する研究，精神衛生研究，31，1985
- 7) 東京都都民生活局，大都市青少年の生活・価値観に関する調査，1977
- 8) 吉田 昇ほか：現代青年の意識と行動，NHKブックス，1978
- 9) NHK世論調査部編：中学生・高校生の意識，1984
- 10) 福島 章：青年の性との出会い，精神の科学5．食・性・精神，岩波書店，1979
- 11) 総理府青少年対策本部編：情報化社会と青少年，大蔵省印刷局，1982

資料 (1)

高校生の生活行動意識調査

★ 記入年月日 (昭和 年 月 日)

★ () 学年 () 組

現代の高校生の生活行動や意識を知るために、この調査を実施することにしました。
お答えについては絶対に秘密を守りますので、御協力下さい。
次のところに、記入、またはあてはまる番号に○をつけて下さい。

(1) 性別 (1. 男 2. 女)

(2) 年齢 (満 歳)

(3) 学年 (年)

(4) 家族の人数 (人)

(5) 家族構成 (年齢あるいは人数を書いて下さい。)

1) 父 (年齢 歳) 2) 母 (年齢 歳)

3) 兄 (人数 人) 4) 姉 (人数 人)

5) 弟 (人数 人) 6) 妹 (人数 人)

7) 祖父母 (人数 人)

8) その他 (人数 人)

(6) あなたには、友達が何人いますか？

1. 1人 2. 2～3人 3. 4～6人 4. 7人以上 5. いない

- (7) 問6のうち親友と呼べる人はいますか？
1. いる () 人 2. いない 3. わからない
- (8) とくに親友と思う理由は何ですか？ 一つだけ○をして下さい。
(現在、親友のいない人も答えて下さい。)
1. 好みや趣味が似ている
2. 悩みごとや他の人には言えないことを相談できる
3. 一緒にいる時間が最も長い
4. 気が合う
5. 長い間つき合っている
6. その他(具体的に書いて下さい。)
- (9) あなたは、友達とのつき合いをわずらわしいと感じたことがありますか？
1. よくある 2. 時々ある 3. ない
- (10) あなたはクラスの中で孤独だと感じたことがありますか？
1. よくある 2. 時々ある 3. ない
- (11) あなたのクラスにはいくつかのグループがありますか？
1. ある 2. ない 3. わからない
- (12) 問11で「グループがある」と答えた人にお聞きします。
<1>あなたは現在いずれかのグループに属していますか？
1. 属している 2. 属していない 3. どちらともいえない
<2>前問で「グループに属している」と答えた人にお聞きします。
グループの中で気の合わない人もいますか？
1. いる 2. いない 3. どちらともいえない
- (13) あなたにとってグループとはどういうものですか？
自由に書いて下さい。()
- (14) あなたは「同級生にどう思われているかはとても大切である」と思いますか？
1. 思う 2. 思わない 3. どちらともいえない
- (15) あなたは「親友でもお互いに嫌なところは見せないようにしたい」と思いますか？
1. 思う 2. 思わない 3. どちらともいえない

- (16) あなたは悩みごとがあればまず最初に誰に相談しますか？ 一つだけ○をして下さい。
1. 父 2. 母 3. 兄弟・姉妹 4. 先生 5. 友達・親友
6. その他 7. 誰にも相談しない
- (17) あなたのお父さんは父親として「まあ合格点をあげてもよい」と思いますか？
1. 思う 2. 思わない 3. わからない
- (18) あなたのお母さんは母親として「まあ合格点をあげてもよい」と思いますか？
1. 思う 2. 思わない 3. わからない
- (19) あなたはあなたの家族をどんな家族だと思えますか？
1. よくまとまっている 2. なんとかまとまっている 3. バラバラだ
- (20) あなたはお父さんとよく話し合いますか？
1. よく話す 2. 普通 3. あまり話さない 4. わからない
- (21) あなたはお母さんとよく話し合いますか？
1. よく話す 2. 普通 3. あまり話さない 4. わからない
- (22) あなたは親以外の大人とよく話す機会がありますか？
1. ある (いくつでも○をして下さい。)
< 1. 祖父母 2. 親戚 3. 先生 4. 親の知合い
5. 友達の親 6. その他 (具体的に書いて下さい。) >
2. ない
- (23) 今の高校は自分の希望していたところですか？
1. 第一希望であった 2. まあ行ってもよいと思っていた
3. 希望していなかった
- (24) あなたは現在の学校生活に満足していますか？
1. 満足している 2. 満足していない 3. どちらともいえない
- (25) あなたは大学進学についてどう思っていますか？
1. 進学したい 2. 進学したくない 3. わからない
- (26) もしあなたに何か一つ希望がかなうとすればそれは何ですか？
1. 学業成績 2. 容姿 3. 性格 4. 異性の友達
5. クラブ活動の成績 6. その他 (具体的に書いて下さい。)

- (27) あなたの現在の学業成績はどうですか？
1. よいほうである 2. 普通 3. 悪いほうである
- (28) あなたは学習塾や予備校に行っていますか？
1. 週3回以上行っている 2. 週1～2回行っている 3. 行っていない
- (29) あなたは今の学校生活についてどのような気持ちを持っていますか？
一番近いものに一つだけ○をして下さい。
1. 進学のために必要である
2. 就職のために必要である
3. 高校生活そのものを充実させたい
4. 行かなくてはならないから行っているだけ
5. 中退してもかまわない
6. その他（具体的に書いて下さい。)
- (30) あなたは「今すぐ世の中に出ても何とかやっていける」と思いますか？
1. やっていける 2. やっていけない 3. どちらともいえない
- (31) あなたは将来やりたい仕事がありますか？
1. ある（具体的に、それは何ですか？)
2. とくにない
3. まだわからない
- (32) あなたは今の自分の性格をどう思いますか？
1. 今のままでよい 2. もう少し違ったほうがよい
3. まったく別人のようになりたい
- (33) あなたは人を笑わせたり、楽しませたりするのは得意ですか？
1. 得意なほうである 2. 得意になりたい 3. どちらともいえない
- (34) あなたは「やっぱりかってよくななくっちゃ」と思いますか？
1. 思う 2. 思わない 3. どちらでもよい
- (35) あなたはふと「自分とは何だろうか」と考えることがありますか？
1. よくある 2. 時々ある 3. ない
- (36) あなたは「家を出て一人で生活をしたい」と思うことがありますか？
1. よく思う 2. 時々ある 3. ない

- (37) あなたは「頑張っても無理なことがたくさんある」と思いますか？
1. 思う 2. 思わない 3. わからない
- (38) あなたは現在異性の友達はいますか？
1. いる () 人 2. いない
- (39) あなたは現在一対一でつきあっている異性の友達はいますか？
1. いる 2. いない
- (40) あなたが男女交際をするとしたら、どのような交際がしたいですか？
1. 友達以上の関係にならない交際をしたい
2. キスくらいならしてもよい
3. ペットィングまでならしてもよい
4. 性交してもよい
5. わからない
- (41) あなたはセックスに関する情報は主としてどこから得ますか？
一つだけ○をして下さい。
1. 友達 2. 先輩 3. 雑誌 4. テレビ 5. ラジオ 6. 映画
7. 親 8. その他（具体的に書いて下さい）
- (42) あなたは自分の体重や体型に気をつけていますか？
1. 気をつけている 2. あまり気をつけていない
- (43) 問42で「体重や体型に気をつけている」と答えた人にお聞きします。
ではあなたはどのように気をつけていますか？（いくつでも○をつけて下さい。）
1. 食べ過ぎないようにしている
2. 運動している
3. 食べ物や飲物（例えばシュガーレスなど）に気をつけている
4. 薬などを使っている
5. その他（具体的に書いて下さい。）
- (44) あなたは朝、入浴（シャワー）したり洗髪したりしますか？
1. ほとんど毎朝する 2. 時々する 3. しない
- (45) あなたは流行やバーゲンの時期にいつも気をつけていますか？
1. 気をつけている 2. 気をつけていない 3. どちらともいえない

- (46) あなたはいつも友達と一緒に行く店（例えばハンバーガー・ショップやギフト・ショップなど）がありますか？
1. ある（あれば1つだけ書いて下さい。)
 2. ない
- (47) あなたの家の門限時間（塾、おけいこは除く）は何時ですか？
1. 7時まで
 2. 9時まで
 3. 10時まで
 4. なし
- (48) あなたは手紙や日記などをよく書きますか？
1. かなりよく書く
 2. たまに書く
 3. ほとんど書かない
- (49) あなたは友達と電話でどのくらいやりとりをしますか？
1. 1週間に1回以下
 2. 1週間に2～3回
 3. 1週間に4～5回以上
- (50) 1回にける電話の平均時間はどのくらいですか？
1. 30分以下
 2. 30分～1時間
 3. 1時間以上
- (51) あなたは登校拒否をしたと思ったことがありますか？
1. よくある
 2. 時々ある
 3. ない
- (52) では、実際に登校拒否をしたことがありますか？
1. ある
 2. ない
- (53) あなたは家庭と仕事のどちらが大切だと思いますか？
1. 家庭のほうが大切
 2. 仕事のほうが大切
 3. どちらともいえない
- (54) あなたは“主夫”（妻が外で働き、夫が家事をすること）についてどう思いますか？
1. よいと思う
 2. よくないと思う
 3. どちらともいえない
- (55) あなたは「将来海外に永住すること」についてどう思いますか？
1. できればしてみたい
 2. やはり日本のほうがよい
 3. わからない
- (56) あなたは友達どうしの集まりやコンパでお酒を飲んだことがありますか？
1. よくある
 2. たまにある
 3. ない
- (57) あなたはアルコールを飲んで気分が悪くなったり酔っぱらってしまったことがありますか？
1. よくある
 2. たまにある
 3. ない
- (58) あなたのお父さんの飲酒をどう思いますか？
1. よい
 2. よくない
 3. わからない
 4. 飲まない

(59) あなたのお母さんの飲酒をどう思いますか？

1. よい 2. よくない 3. わからない 4. 飲まない

(60) 下記の質問は、多くの人がしばしば経験することについて書いたものです。

あなたが最近1年間位の間、時々経験したり、感じたりしたことがあれば□の中に○を、なければ×を書いて下さい。

1.	食欲がない
2.	はき気、胸やけ、腹痛がある
3.	わけもなく便秘や下痢をしやすい
4.	動悸や脈が気になる
5.	いつも体の調子がよい
6.	将来のことを心配しすぎる
7.	人に会いたくない
8.	やる気が出てこない
9.	悲観的になる
10.	考えがまとまらない
11.	気分が波がありすぎる
12.	不眠がちである
13.	頭痛がする
14.	頸すじや肩がこる
15.	胸がいたんだり、しめつけられる
16.	いつも活動的である
17.	気が小さすぎる
18.	いらいらしやすい
19.	死にたくなる
20.	何事も生き生きと感じられない
21.	根気が続かない

(次頁に続く)

22.	決断力がない
23.	人に頼りすぎる
24.	赤面してこまる
25.	どもったり、声がふるえる
26.	気分があかるい
27.	なんとなく不安である
28.	一人でいると落ち着かない
29.	ものごとに自信がもてない
30.	何事もためらいがちである
31.	他人にわるくとられやすい
32.	つきあいが嫌いである
33.	体がだるい
34.	めまいや立ちくらみがする
35.	こだわりすぎる
36.	くり返したしかめないと苦しい
37.	つまらぬ考えがとれない
38.	自分のへんなにおいが気になる
39.	他人の視線が気になる
40.	気持が傷つけられやすい

『青年期の対人関係』

表1. 家族構成

	A 校	B 校
父	551(97.9%)	423(86.7%)
母	560(99.5%)	446(91.4%)

表2. 希望校かどうか

	A 校	B 校
第一希望であった	466(82.8%)	138(28.3%)
まあ行ってもよい と思っていた	82(14.6%)	252(51.6%)
希望していなかった	12(2.1%)	95(19.5%)
無答	3(0.5%)	3(0.6%)

表3. 大学進学

	A 校	B 校
進学したい	525(93.3%)	124(25.4%)
進学したくない	3(0.5%)	165(33.8%)
わからない	35(6.2%)	197(40.4%)
無答	0(0.0%)	2(0.4%)

表4. 学習塾・予備校

	A 校	B 校
週3回以上	40(7.1%)	0(0.0%)
週1～2回	190(33.7%)	5(1.0%)
行っていない	331(58.8%)	482(98.8%)
無答	2(0.4%)	1(0.2%)

表5. 友達の人数

回答	学校性別		B 校	
	男	女	男	女
1人	0	0	1	0
2～3人	4	6	7	3
4～6人	24	14	24	11
7人以上	259	251	192	243
いない	4	0	2	0
無答	1	0	2	3

表6. 親友の有無

回答	学校性別		B 校	
	男	女	男	女
いる	177	203	123	192
いない	19	14	8	4
わからない	92	52	93	60
無答	4	2	4	4

表7. 親友と思う理由

回答	学校性別		B 校	
	男	女	男	女
好みや趣味の一致	13	3	11	0
相談できる	113	181	64	168
一緒に時間が長い	11	0	10	8
気が合う	87	47	54	34
つき合いが長い	21	4	40	18
その他・無答	47	36	49	32

『青年期の対人関係』

表8. つき合いのわずらわしさを感じる時

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
よくある		18	9	9	9
時々ある		161	151	105	142
ない		113	110	111	105
無答		0	1	3	4

表12. グループの中で気の合わない人がいるか

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
いる		4	21	7	25
いない		58	93	33	72
どちらともいえない		15	54	11	43
無答		2	4	1	0

表9. 孤独だと感じる時

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
よくある		17	15	16	21
時々ある		131	88	78	100
ない		144	166	131	137
無答		0	2	3	2

表13. 同級生にどう思われているかは大切である

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
思う		178	183	105	141
思わない		29	24	24	32
どちらともいえない		85	62	95	87
無答		0	2	4	0

表10. グループの有無

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
ある		163	222	89	214
ない		8	1	4	1
わからない		121	48	133	45
無答		0	0	2	0

表14. 親友にも嫌なところは見せない

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
思う		87	52	70	27
思わない		98	104	64	123
どちらともいえない		107	114	92	108
無答		0	1	2	2

表11. グループに属しているか

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
属している		79	172	52	140
属していない		27	12	11	24
どちらともいえない		57	38	26	50

表15. 悩みごとの相談相手

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
父		8	1	7	0
母		46	48	16	13
兄弟・姉妹		8	18	9	5
先生		1	1	2	0
友達・親友		137	169	118	209
その他		4	6	16	9
誰にも相談しない		84	24	57	23
無答		4	4	3	1

表16. 父親に対する評価

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
思う		187	176	93	102
思わない		37	33	27	59
わからない		67	62	90	89
無答		1	0	18	10

表17. 母親に対する評価

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
思う		222	220	120	143
思わない		18	9	20	25
わからない		51	41	80	88
無答		1	1	8	4

表18. 家族のまとまり

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
よくまとまっている		131	142	49	59
なんとかまとまっている		137	108	133	141
バラバラだ		24	18	43	54
無答		0	3	3	6

表19. 父親との対話

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
よく話す		66	62	23	34
普通		136	112	91	99
あまり話さない		82	89	78	97
わからない		7	8	20	17
無答		1	0	16	13

表20. 母親との対話

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
よく話す		116	191	60	105
普通		144	64	119	111
あまり話さない		26	10	30	25
わからない		5	4	11	10
無答		1	2	8	9

『青年期の対人関係』

表21. 親以外の大人との対話

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
祖父母		54	56	23	39
親戚		46	46	45	79
先生		75	78	48	42
親の知りあい		29	44	53	71
友達の親		21	30	75	83
その他		22	28	31	31
話さない		147	114	76	68
無答		5	1	6	6

注：複数回答

表22. 異性の友達

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
いる		110	125	96	187
いない		175	131	121	66
無答		7	15	11	7

表23. 一対一でつきあっている異性の友達

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
いる		20	28	29	65
いない		270	238	191	182
無答		2	5	8	13

表24. 男女交際

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
友達以上の関係にならない		49	98	12	25
キスならよい		50	40	23	15
ベッティングまでならよい		6	4	2	0
性交してよい		25	3	39	8
わからない		157	114	143	201
無答		5	12	9	11

表25. セックスに関する情報

回答	学校 性別	A 校		B 校	
		男	女	男	女
友達		134	69	142	161
先輩		5	1	14	3
雑誌		92	94	24	42
テレビ		28	36	17	17
ラジオ		9	8	1	1
映画		1	2	1	1
親		0	7	1	0
その他		5	15	8	9
無答		18	39	20	26